

【翻 訳】

第55回ミュンヘン安全保障会議における連邦首相 アンゲラ・メルケル博士の演説 (2019年2月16日 ミュンヘン)

齋 藤 義 彦 訳

各国の大統領閣下、同僚の（首相職の）皆様、各国議会の同僚の皆様、イッシンガー殿¹、ご来場の皆様、もちろんバイエルン州首相にもご挨拶申し上げます。² ミュンヘンは優れた主催都市です。バイエルン州の実力はここで遺憾なく発揮されています。ドイツにはほかにも優れた都市がありますが、今日はミュンヘンが中心都市です。

2019年の今年私たちは250年前にアレクサンダー・フォン・フンボルトが生誕したことを記念しています。アレクサンダー・フォン・フンボルトは産業化への敷居期に活躍しました。彼は科学者であり、旅行者でした。彼は世界を全体として理解し、観察するという意気込みに突き動かされていました。彼はこの望みを巧みに成功に導きました。1803年のメキシコ旅行記に記されているように、彼の信念は、「すべては相互に影響する」というものでした。³

ほぼ200年後の2000年にノーベル化学賞を受賞したパウル・クルツェンは、オゾンホールと化学的相互作用を研究した結果、私たちが今や新たな地質学的時代に入ったことを確認しました。氷河期と間氷期は過ぎ、私たちは人類新世紀（人新世 = Anthropocene）にあると。2016年にこの定義は国際地学学会に採用されました。つまり私たちは、人類の影響が地球に決定的な影響を与えるようになり、人類によって作られた地質学的時代としてこれを見るようになる、そのような時代に生きているのです。これは核実験、人口爆発、気候変動、資源乱獲、大洋に蓄積されるマイクロプラスチックの影響です。これらは私たちが今日行っていることのいくつかの例にすぎません。⁴

これらすべてのことがグローバルな安全、私たちがここで議論しようとしている諸問題に影響を与えているのです。ですからいかにこの会議が1963年に開始したかを今一度振り返ってみる必要があります。それは第2次世界大戦とドイツにおけるナチズム後の歴史に強く影響を受けた防衛政策会議でした。それは大西洋関係に強く刻印された行事でした。ですから今日アメリカ合衆国の多くの代表が参加してくださることを私は喜ばしく思います。⁵ 今日私たちは包括的な安全保障会議に参集しています。ここではエネルギー供給から途上国との協力、防衛問題はもちろん、包括的な安全保障の観点まで議論します。これは当然の対応です。

私たちは相互依存的な構造の中で考える必要があります。軍事的な要素はその中の一つです。21世紀の初頭、21世紀の20年代にかかろうとする今、私たちが感じていることは、次のようなことです。私たちの仕事の間である諸構造は基本的に第2次世界大戦とナチズムの恐怖から生まれた構造

なのです。しかしこの構造は、戦後の展開が改革を要求するようになったため、相当の圧力を受けているものだという事です。しかし私は、この構造を安易に解体すべきではないと考えています。ですからこの安全保障会議のテーマは「大きなパズル」となっているのです。私はまずこのテーマの前半から始めたいと思います。列強間の対立、この言葉から私たちがこれまで世界の全体として、構築として考えてきたものが圧力を受け、パズルとして、つまり部分に解体したものとしてあるということへの手がかりを与えています。

30年前にベルリンの壁が崩壊しました。私たちはこのことを今年記念します。冷戦は終結しました。当時人々はNatoのようなものはまだ必要なのだろうかと問いかけたものです。私たちは今日答えを知っています。嵐の時代の錨として私たちはNatoを必要としています。私たちはNatoを価値共同体として必要としています。なぜなら私たちはNatoを軍事同盟としてだけではなく、人権、民主主義、法治国家が共同行動の指針であるような価値共同体として創設したことを決して忘れてはならないからです。

このNatoが今日もなお大きな魅力を持つことを、私たちが北マケドニアも、こんにち私たち皆がこのように呼ぶことができるようになったことは喜ばしいことです、Natoの一員になれるかどうかという問題に取り組んだ過去数か月にも確認することができました。主要当事者であるゾラン・ザエフ北マケドニア首相とアレクシス・ツィプラス・ギリシア首相の勇気ある行動に対し心から感謝の意を表します。お二人は今晚エーヴァルト・フォン・クライスト賞を受賞されます。⁶ 私たちが今日抱える多くの未解決の紛争に対しこの事例は、勇気をもって問題解決に当たれば解決できるという良き前例になります。私は一時期いろいろな国名の組み合わせを考えることにはもはや意味はないと考え断念していたほどです。というわけで成功を祈ります。

しかし私たちの課題となっている紛争も多くあります。それはここでの議論の対象ともなっています。まず私自身また私たちの多くを悩ませている紛争を取り上げたいと思います。それは私たちのロシアに対する関係です。ロシアはソ連邦という形で冷戦時代一方を代表する当事者でした。私たちは、ベルリンの壁が崩壊した後で、よりよい関係を持つことができるかもしれないとの希望を抱きました。その間Nato・ロシア基本議定書を締結することができました。2011年にこの安全保障会議に際し、ヒラリー・クリントンとセルゲイ・ラヴロフが新戦略兵器削減条約の批准書を交換したことを想起すると、2019年の今日この出来事は隔世の感があるのを禁じえません。しかし当時二人は戦略的パートナーシップの一里塚について語っていたのです。このことに言及したのは、一方で過去数年間に起こったことを示すとともに、他方で双方が協議を重ねれば数年後には全く様相が変わりうることを示すためです。ですから私はイェンス・ストルテンベルクがここ数年の困難な時代にあってNato・ロシア基本議定書を繰り返し確認するだけでなく、対話を追求したことに感謝の意を表します。心から感謝いたします。

2014年3月にクリミア半島が併合されました。明らかに国際法に反する行動です。それに続き、ペトロ・ポロシェンコがここにいます、東ウクライナが攻撃されました。その後困難な交渉の結果

合意された停戦、これは確かに不安定なものです、ドイツ、フランスおよびロシアとウクライナが共同で紛争を解決するために締結したミンスク合意によってかろうじて保たれています。しかし解決からは程遠いと言わざるを得ません。私たちはさらに努力を続ける必要があります。

私たちヨーロッパ人にとって、こう表現しても許されるならば、今年最悪のニュースは、中距離核兵器に関するワシントン条約の破棄でした。ロシアによる、数十年とは言わないまでも、ここ数年の条約の侵害により、破棄が不可避になりました。私たちは皆ヨーロッパ人としてこの条約を順守してきました。アメリカの同僚の皆様にお伝えしますが、これは興味深い状況だと言わざるを得ません。本来ヨーロッパのために考案されたこの条約がアメリカとソ連の法的継承国としてのロシアによって破棄されたのです。私たちは座視するばかりですが、今後の軍縮を可能にするために、もちろん基本的な利害関心をもってあらゆる措置を検討します。なぜなら盲目的な軍拡という選択肢はないからです。

もちろん、今日中国の代表も列席されていますが、軍縮は私たち皆を翻弄している事柄であり、アメリカ合衆国、欧州、ロシアの間だけで交渉がなされるのではなく、中国が参加すれば、喜ばしいことと考えています。多くの留保があることは承知していますが、今日はこの問題に深入りしないつもりです。しかし私たちは中国の参加を歓迎することは確かです。

私たちは2014年にウェールズでウクライナでの事件に対する答えとして次のように言明しました。アフガニスタンで経験しているようなテロに対する戦いだけでなく、同盟防衛もまた再び私たちの努力の中心となったと。当時各国の防衛支出をそれぞれの国内総生産の2%に向けて増額するという目標が再確認されました。これはすでに2000年代初頭の目標であったことに私は繰り返し注意を喚起してきました。新たにNatoの加盟国になりたい国がまず最初に指摘されることは、2%に向かって進まなければ、Natoへの加盟は認められないと。これは私が首相になる前のことです。

ドイツは現在この関連で批判にさらされています。私はこのことについて明らかにしたいと思います。私たちは2014年に1.18%だった防衛支出をその後1.35%まで拡大しました。私たちは2024年には1.5%に到達する計画です。もしかしたらこれは十分なものではないかもしれませんが、私たちにとっては本質的な飛躍となります。

もちろん問わなければいけないことは、この資金で何をするかです。こう言って良ければ、私たちが皆景気後退に陥り、経済成長がなければ、防衛予算は容易なものになるでしょう。しかしこれが同盟に有益であるとは言えません。ですから一方でそのような目安があることは正しいことです、他方で貢献の内容が問われなければなりません。

ドイツは貢献をしています。私たちはすでに18年間アフガニスタンにおり、ほぼ1300人のドイツ軍兵士を擁します。私たちは20か国のパートナーとともにアフガニスタン北部で活動しています。これは北大西洋条約第5条を適用した最初で唯一の動員であり、共同の長期にわたる作戦です。私の心からの願いは今後の展望についてともに話し合うことです。私たちの安全はヒンドクシュ山脈で守られるということについて、国民に対し多大な説得の努力をしてきました。⁷ 現地には複雑に

絡み合った要員がいるため、ある日突然撤収することにならないことを切に祈っています。リトアニアでは私たちは主要参加国です。私たちは再度Nato先鋒部隊の指揮を執ることになりました。ここですべての事例を列挙するつもりはありません。しかしこれらのことは同盟防衛に極めて有益な事柄です。このように私たちは自らの貢献をする用意があります。

私たちはその間Nato域外でも活動しています。例えばマリです。これは例えば私たちの友人であるフランスで実践されてきた軍事文化ではありますが、ドイツにとっては大きな一歩です。今朝欧州同盟持ち回り議長と新たに選出されたアフリカ同盟議長であるアッ＝シーシ・エジプト大統領、議長選出おめでとうございます、ほんの数日前のことでしたが、との間で討議の場が用意されました。

アフリカでの発展の問題とアフリカとの関係は、例えばアメリカとは違う課題を私たちヨーロッパ人に突き付けてくるでしょう。アフリカにはいつもNato部隊が投入されるわけではありません。ですから私たちの首尾一貫した欧州防衛政策のための努力をNatoに対立するものではなく、Natoの中での協力をより効率的により良い仕方でも可能にするものとして理解するようお願いします。なぜなら私たちが共通の軍事文化を発展させ、私たちの兵器システムをより整合的にすれば、欧州同盟とNatoの加盟国である多くの国にある非効率性を克服できるからです。

ドイツがその際途方もない課題に直面することは確かだと言わざるを得ません。私たちは今後共通の兵器システムを開発しようとしています。そして私たちがフランスとの間で締結したアーヘン条約（改定独仏同盟条約）との関連でも装備品輸出の問題はもちろん一定の役割を果たしました。つまりもし私たちが共通の装備品輸出文化を共有しないのであれば、共通の兵器システムの開発ももちろん危険に晒されます。つまり共通の装備品輸出政策に合意できなければ、欧州軍や共通装備品政策や、共通装備品開発について語ることはできないのです。この点で私たちはドイツでの多くの複雑な議論をしなければならないでしょう。このことを私が皆さまに暴露しても決して秘密ではないことは明らかですが。

ロシアとの関係と並んでテロに対する戦いは私たちにとって大きな課題です。もちろんユーロ危機とも並んでというべきですが。2014年、2015年に私たちはギリシアとユーロ圏への残留について熱心な交渉を行いました。その後2015年には難民問題が私たちを圧倒しました。この難民問題はシリアでの状況に起因するものです。それはテロの課題が同時に加わったいわば内戦でした。そのため私たちは例えば同盟防衛との関連とは全く性質を異にする安全保障問題に直面することになりました。つまりヨーロッパは、人道的文明的なドラマに際し一定の仕方でも責任を負う用意があるのかどうかという問いに直面したのです。あれほど多くの難民がヨーロッパにやってきたということは、私たちが以前ヨルダン、レバノン、トルコにおける難民の状況に関心を示さなかったことに関係しています。これらの地域にはすでに300万人以上の難民が到着していたのです。これらの国々の安定は実際危険にさらされました。このことが難民をして最後には密出国業者に身を任せ、私たちは別の道を探すといわしめたのです。

ヨーロッパはこの関連で課題を引き受けました。それはドイツだけではなく、スウェーデン、オーストリア、その他の諸国も同じです。私たちは当時人道的危機の中で援助の手を差し伸べました。しかし諸国家の人道的危機に対する答えが、密出国業者が仕切り、難民が絶え間ない危険にさらされるということであってはならないという点で私たちは一致していると考えます。正しい答えはEU・トルコ協定を結ぶことでした。

その後途上国援助を強化したこともドイツにとって正しい答えでした。Nato内で2%の方向に踏み出すというウェールズでの合意がなされたのと同時期に私たちは同様の規模の途上国支援を推進しました。なぜならこれも安全保障問題であると確信していたからです。人道支援、世界飢饉支援、国連の難民高等弁務官のために十分な拠出をしなければ、私たちはすでに世界で最も多額の拠出国の一つになりましたが、その拠出金で人々が支援を受けられるようであれば、難民のドラマは永続化するでしょう。例えばドイツ人の支援への姿勢は素晴らしいものでした。しかし私たちはこの問題を現地で解決しなければなりません。このことが私たちが学んだことです。それが同盟能力を強化することと同様重要であると私が考えている同時進行の課題なのです。

私たちはヨーロッパ、この問題ではイタリアに目を向ければ、リビアでの展開によって、アフリカはどんな発展を遂げるのかという問題の一端を知ることになりました。この国の不安定はリビアがいわば多くのアフリカの難民移動の出発点にあるという事態を招きました。もちろんスペインの友人はすでに10年、15年前からモロッコに対し同様の課題を抱えていました。その結果欧州同盟はアフリカとのパートナーシップをより首尾一貫した、より断固としたやり方で進めるようになったのです。

しかし私たちは正直にならなければなりません。私たちはなおこのパートナーシップの端緒にいます。サハラ以南地域、またエジプト、モロッコ、チュニジア、アルジェリアの青年が、機会と希望を持ち、これらの国で生活の展望を獲得するのでなければ、私たちはヨーロッパとアフリカの間の福祉格差を解消することはできません。

私たちは中国が数年来すでに大規模な投資という意味でのアフリカにおける途上国政策を推進していることを知っています。他方私たちは欧州で非常に古典的な途上国政策を進めてきました。私は習近平主席と、両者がそれぞれ優れたことをしている点について互いに学ぶことができるということについて話をしました。しかしこれらの国々に安全と平和と安定をもたらすために、投資が十分な数の雇用を生み出す、と言えるような途上国政策の計画をまだ私たちは持つに至ってはいません。

再びドイツ連邦共和国の発足時には同時代的課題とは考えてこなかったようなことをドイツは約束しました。よろしい、テロに対抗することを目指しているG5南サハラ地域部隊⁸を支援しましょうと。私たちはマリーに部隊を派遣し、国連と協力してテロとの戦いに参加しています。またマリーには軍事顧問を派遣し、戦闘部隊の訓練にも当たっています。しかしこれらの国が経済的な展望をもたなければ、これらすべてのことは無益でしょう。ですから私たちは開発援助を増額したばかりで

す。もう一度申し上げますが、この開発援助の方法はなお未完成です。これはアフリカ連合との共同でしかなしえません。

アフリカ連合がその間、アジェンダ2063やその他の目的が明らかな、明確な戦略的ヴィジョンを持っていることを喜ばしく思います。なぜなら今日ドイツ語にもなっているオーナーシップというものが不可欠だからです。これこそ私たちの計画だといえるような感覚が必要なのです。ここ数年間の多国間協力の中で改善されたものはといえば、私から見れば、アフリカ連合はそのよい例と言えます。

以上のことが、私が紹介したかった、ドイツが参画することになったいわば課題です。ここからは私たちの協力の方法論に移りたいと思います。というのも大西洋同盟はもちろん、こう言ってよければ、本質的に防衛同盟です。外相は確かに頻繁に会合を開きますが、私たちはフランスと、その場で政治的課題も話し合うことが許されているのかについて長年議論を重ねてきました。私の結論は、Natoはその複合的な安全保障概念を繰り返し視野に入れることによって始めて課題に対応することができるというものです。とうのもこれら多くの課題は一つとして軍事的アプローチだけでは解決できないからです。

その際もちろんこの問いに対する答えがどのようなものであるべきかという問題には葛藤があります。ウクライナ問題での答えはどのようなものであるか。ミンスク協定に関しては私たちの意見は一致しています。再び、ケルチュ海峡での兵士拘束事件のようにさらなる緊張が高まるのであれば、ロシアに対するさらなる制裁を協調して進めることを私は心から願っています。各国が独自の制裁を科すことには何の意味もありません。3番目に確認すべきことは、私たちは引き続きNato・ロシア議定書を順守するということです。対話の糸口を閉ざすべきではありません。

4番目に確認すべきことは、経済協力です。これに関しては、例えば北海パイプライン2に関するのですが、多くの議論があります。ここに参列されているポロシェンコ大統領が、ウクライナはロシアの天然ガスの通過国であり、その地位を保持したいとおっしゃることを私は理解します。私は繰り返しそのための支援を惜しまず、交渉に当たるとポロシェンコ大統領に保証してきました。選挙の結果がどうであれ、私たちの立場は変わりません。⁹ ロシアのガスは、ウクライナを通過しようが、北海を通過しようが、ロシアのガスであることに変わりません。私たちがどの程度ロシアに依存しているかとの問いは、どのパイプラインをガスが通過するのかという問題によっては解決できないのです。私は次のことを約束します。誰も一方的に、完全に一方的にロシアに依存したくはありません。冷戦の中でも私たちがロシアの天然ガスの供給を受けていたことを、私がまだ東ドイツの側にあつて当然ロシアの天然ガスの供給を受けただけでなく、旧西ドイツもまた大量にロシアの天然ガスの供給を受けていたことを考えれば、ロシアはパートナーであるといえないほど時代が悪化したとは私は考えることができないのです。

私から見て左に着席されているポロシェンコ大統領と右側に中国の代表団の方を前にして憚りながら申し上げますが、私たちはロシアを中国だけに依存させ、供給させていいのだろうか、と問わなけ

ればなりません。それが私たちヨーロッパの利益でしょうか。私もそうは思いません。私たちも幾ばくか貿易関係に参加したいと考えています。このことについてもオープンな議論をしなければなりません。

ヨーロッパにはすでに液化天然ガスの大規模な設備がありますが、私たちは保有する液化天然ガスを超えるLNG基地を持っています、天然ガス使用の予想される増加とアメリカ合衆国の液化天然ガスの生産をにらみドイツでも引き続き液化天然ガスを選択するという戦略的決定を下しました。私たちは核燃、褐炭、石炭から離脱するので、ドイツは今後数年間疑いなく確実な需要国となります。これは天然ガスに関してすべての供給国について言えます。

さらに私たちは、現在私たちを分断しているイランという問題があります。私が大変懸念しているこの分断については大いに注意しなければなりません。私はクネセット（イスラエル議会）でイスラエルの生存権はドイツの国家理性に属すということを請け負いました。私はこれを言葉通りに理解しています。私はミサイル計画を知っています。私はイエメンでのイランを知っています。特に私はシリアでのイランを知っています。この問題で合衆国とヨーロッパとの間にある唯一の問いは次の通りです。唯一のなお存続している条約を破棄することで私たちの共通の事柄、私たちの共通の目的、つまりイランの有害で困難な影響力を抑止することに益するか否かということです。あるいは私たちは私たちがなお所有している小さな錨を保持することによって、ほかの分野でも影響力を行使するのに役立つかどうかということです。私たちが争っているのは戦術的な問題です。しかし目標はもちろん同じものです。

また私自身毎日批判されているので申し上げますが、ただちに迅速にシリアから撤退することはアメリカの利益になるのかどうか、それともシリアで影響力を確保しようとしているイランとロシアの可能性を強めるのではないかと。このことについても私たちは話し合う必要があります。これが議題となっており、私たちがともに話し合う必要がある事柄です。

同様にももちろん中国、合衆国、ヨーロッパの間の経済関係が今後どうなるかという問題があります。これは大きな問題です。私たちは中国が発展している国であることを目撃しています。私が中国へ行くと中国の代表がこういうのです。「私たちはキリスト生誕後2000年のうち1700年の間先進的な経済大国でした。私たちがいつもあった地位に回帰するだけで大騒ぎしないでください。あなたたちはこのことをこの300年の間経験してこなかっただけです。」私たちは言い返しました。「しかし私たちはこの300年の間先進国でした。まずヨーロッパが、そしてアメリカ合衆国が。そして両者がともに。」今は私たちは互いを弱体化させるような争いにならないよう、現状に向き合い、理性的な解決を見つけなければなりません。

このことについて私ははっきり申し上げます。私はすべての公正さと貿易のための努力を支持します。相互性が重要です。このことについて話し合う必要があります。私たちはこの問題を互いをパートナーとみなし、ほかの多くのグローバルな問題を解決するという課題を共有しているという事実をもとに話し合うべきです。ですから私たちが共通理解を得ることが有益なのです。わたしは

現在進行中のアメリカ合衆国との貿易分野での交渉に大いに期待しています。

このことについて私ははっきり申し上げます。大西洋のパートナーシップが私たちにとって重要であるだけに、次のような報告を読むことは、まだ私自身は直接読んだわけではありませんが、ドイツ首相として容易なことではありません。ヨーロッパの自動車はアメリカ合衆国の国家安全保障にとって脅威であるとアメリカ商務省が述べたことです。私たちは私たちの自動車に誇りを持っています。それには理由があります。この自動車はアメリカ合衆国でも製造されています。サウスカロライナ州にはBMWの世界最大の工場があります。バイエルン州ではなくサウスカロライナ州です。さらにサウスカロライナ州で製造された車は中国に輸出されています。サウスカロライナ州で製造されても、バイエルン州で製造された車と同様に突然アメリカ合衆国の脅威とされたと聞いて私たちは驚愕しています。私が言えることは、きちんとした話し合いをする必要があるということです。誰かが何か話し合いたいというのであれば、そのことについて話し合う必要があります。国際社会では常の事です。話し合えば解決策を見出すことができますでしょう。

ジグソーパズルのように私たちに現れるこれらすべての問題は、すべてを列挙するわけにはいきませんが、根本的な問題の表現でもあります。古典的な私たちが慣れ親しんできた秩序に対する圧力がいかに大きくなったかに私たちは気付いたので、次のような問いが生まれました。私たちはジグソーパズルのピースのように分解し、各国がそれぞれ自己流に問題を解決することがベストだと考えればいいのかという問いです。ドイツ首相として私は次のように答えるしかありません。そうしなければ私たちは機会を失うでしょう。アメリカ合衆国は経済的になお優勢です。通貨としてのドルは依然としてより強力です。そうであれば相手が優位であることを認めざるを得ません。13億の人口を擁する中国は圧倒的に優位に立っています。私たちはいかに勤勉で、優秀で、拔群かもしれませんが。しかし八千万人の人口では、もし中国がドイツと友好関係を持たないと決定すれば、私たちはなすすべがありません。このようなことが世界中で起こるでしょう。

ですから大きな問いが残ります。私たちは、ドイツが引き起こした民族社会主義に発する第二次世界大戦から帰結した教訓である国際協調主義の原則にとどまるべきかどうかという問いです。国際協調はいつも素晴らしいというわけではなく、むしろ困難であり、時間がかかり、複雑であっても。一度他者の立場に立ち、自分の視野を離れ、共通の互恵的な解決を達成できるか探ることのほうが、すべての事柄を単独で解決できると考えるよりも良い、というのが私の信念です。

ですから私は、昨日演説原稿の準備をして、昨晚「国際協調主義は複雑かもしれないが、一人で家にいるよりはましである。」と叫んだリンゼイ・グラムの引用を読んだときに、幸福でした。¹⁰ これがこの会議のモットー「巨大なパズル：誰がピースを拾うのか」への正しい答えだと私は考えます。私たち皆で力を合わせてという答えです。

ご清聴ありがとうございました。

訳注

- ¹ 元外務官僚で当会議の主催者。米中ロ仏の首脳が欠席したためメルケルに注目が集まった。メディアはメルケルが、Natoの枠組みを超えた独自の安全保障観を披露したものとして評価した。
- ² ミュンヘンを首都とするバイエルン州は、メルケル首相が昨年12月まで党首を務めていたキリスト教民主同盟CDUの唯一の姉妹政党であるキリスト教社会同盟CSUの所在地。ベルリンの連邦政府を代表するメルケルは、ミュンヘンではいわばゲスト扱いともいえる。2015年に100万人規模の難民の受け入れを決定したメルケルと移民・難民問題で閣内で深刻な対立を演じたゼーホーファー内相が今年1月までCSUの党首を務めていた。現在はゼーダー州首相がCSU党首を兼任している。メルケルとゼーホーファーはその後、それぞれ党首の座を降りることによって、権力闘争を収束させた。ゼーホーファーは亡命申請を却下された難民の強制送還を加速させる目的で「秩序のある送還法」を策定した。2016年3月のEU・トルコ協定締結以降戦争難民のバルカンルートは事実上閉鎖されたが、なおアフリカ難民の地中海ルートは混乱状態にある。ポピュリズム政党ドイツのための選択枝党の全国政党化（連邦議会だけではなくすべての州議会に進出を果たした）を帰結した難民問題はなおメルケル政権の重要課題であり、安全保障政策もこの問題の根本的解決のための条件と位置付けられている。アメリカの国益優先の単独行動主義による対中、対ロ、対イラン政策が戦後の国際秩序を崩壊させているという認識からメルケルはフランス大統領マクロンとともにEU軍の創設を提唱している。今年3月には独仏親善条約エリゼ条約がアーヘン条約へと改定された。
- ³ 近代地理学の古典である『コスモス』（1845～1862）の著者。一定の気候条件下で人間が居住できる空間を「エクメーネ」と名付けた。
- ⁴ 今年5月23日から26日にかけて行われた欧州議会選挙では、地球温暖化問題が有権者の注目を集め、ドイツをはじめ各国の緑の党が躍進した。ドイツでは緑の党が20%以上を得票し、社民党を抑え第2党となった。フランスの黄色いベスト運動もマクロンによる炭素税増税が事件の発端である。EU全域で政府に地球温暖化への対応を迫る生徒学生による未来のための金曜日運動も依然活発な動きを見せている。それに対しポピュリズム政党は英仏伊で第1党の座を獲得したものの、直前のオーストリア自由党のスキャンダル（シュトラッヘ事件）もあり、議席数から見て予想された大躍進は実現しなかった。この選挙では欧州議会での伝統的な中道の2大会派である保守党（人民党）と社民党が振るわず、初めて両者による過半数確保に失敗した。そのため欧州統合のために自由党と緑の党を結集する必要に迫られている。選挙後の欧州同盟の主要機関のトップ人事（欧州委員会委員長、欧州議会議長、EU大統領、EU外相、欧州中央銀行総裁）はそのため、共同決定権を持つ議会と理事会の協議に加え、統合推進4会派の調整や男女の比率問題も加わり複雑なものとなった。
- ⁵ アメリカ政府代表としてペンス副大統領が参加したほか、下院の多数派である民主党も代表団を送った。ペンスはこの場で改めてドイツ政府のNatoへの資金面での非協力を非難した。しかしメルケルはあくまで約束しているGDP比2%目標は努力すべき目安であるという立場を崩さなかった。
- ⁶ Ewald-Heinrich von Kleistは反ナチズムの抵抗運動家で当会議の設立者。この会議は当初防衛政策会議と称し、「対話による平和」賞を授与した。受賞者にはコフィ・アナン、ジョン・マケイン、ヘンリー・キッシンジャー、ヘルムート・シュミットとジスカール・デスタン、OSZEなどがある。
- ⁷ 当時のシュレーダー政権シュトゥルク防衛相（社民党）の言葉。
- ⁸ ブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェールの5か国
- ⁹ その後大統領役をドラマで演じた喜劇役者のゼレンスキーが、決選投票でポロシェンコを破り大統領に就任した。ドイツはウクライナの政変に深く関与しており、フランスとともにEUの影響圏をロシアに対して維持

することが課題となっている。

¹⁰ Lindsey Olin Graham 米共和党上院議員。大統領選挙ではトランプ批判が顕著であったが、その後支持に回った。

(原文はドイツ連邦共和国政府出版情報局メール版による)